ＴＴＣ提案山行実施記録表

2013 年 7 月 10 日　報告者:関喜義　(1/2)

山行名	土樽～蓬ヒュッテ～土合・上越国境蓬峠越え　（1529m　新潟/群馬）
実施日	2013 年 7 月 6 日(土)～7 日(日)　１泊２日　往復公共交通機関利用
参加人員	レベル：★★☆　参加：6 名／実施 6 名（男 3 名／女 3 名）
スタッフ（参加者）	CL：　SL：　会計/計画：　救護：　写真： （天文解説：　　）　スタッフ名削除、参加者名削除
費用 １人 20,720 円	東京駅～越後湯沢（６枚クーポン綴り座席指定付き）35,700 越後湯沢～蓬新道登山口（ジャンボタクシー代）　5,670 蓬ヒュッテ宿泊代（@7,000×6 名）　42,000 ぽんしゅ館入浴代（割引クーポン使用@700×6 名）　4,200 越後湯沢～東京駅（６枚クーポン綴り座席指定付き）35,700 電話代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1,050　合計 124,320 円 124,320 円÷6 名＝20,720 円 （東京駅までは各自で精算）

計画と実行タイム

	7 月 6 日（土）			7 月 7 日（日）		
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
計画	４：００	１：００	５：００	４：４０	０：５０	５：３０
実行	３：０５	１：１５	４：２０	５：０５	１：００	６：０５

実行コースタイム記録

◆7/6（土）（累積標高差登り 730m/下り 0m、歩行距離 3.5km）

小田急線　中央線　新幹線･とき　ｼﾞｬﾝﾎﾞﾀｸｼｰ　0:55　0:40
本厚木駅++++++新宿駅++++++東京駅+++++++越後湯沢＝＝＝＝林道終点------東股沢渡渉----------広場
6:01　6:57-7:05　7:18-48　9:04-10　09:40-50　（休 05）　10:50　（休 10）　11:40-12:15

0:45　0:35　0:10
-------手前の水場---------地図上の水場-------蓬ヒュッテ（泊）　（小屋周辺散策）
（休 05）13:05-15　（休 05）　13:55-14:00　14:10　（ 14:30-15:10 ）

◆7/7（日）（累積標高差登り 30m/下り 900m、歩行距離 8km）

0:05　1:35　1:05　0:45　1:35
蓬ヒュッテ---蓬峠---雪渓 3 本---白樺避難小屋------武能沢出会-----JR 見張小屋---------土合駅（昼食）
5:55　6:00　（休 10）　7:45-55　（休 10）　9:10　（休 15）　10:10　（休 15）　12:00

上越線　新幹線･たにがわ
土合駅+++++越後湯沢駅（入浴）++++++++++東京駅（解散）
13:50　14:17-16:08　17:40

コース概要、特記事項

▼7 月 6 日（土）くもり時々小雨

県境の稜線歩きはよくあるが、ふもとの駅から県境尾根・中央分水嶺をまたいで別のふもとの駅まで歩くコースは珍しい。凝った計画にすぐさま乗ってしまった。きょうわれわれが歩く蓬新道（8 キロ）は高波吾策さんが昭和 17 年に切り拓いた。土樽山の家の高波さんといえば、土合山の家の中島さんと並んで谷川岳の名物男だった。高波さんは戦後も茂倉新道（7 キロ）、吾策新道（8.5 キロ）、平標新道（9 キロ）と土樽から扇状に上越国境に伸びる登山道を次々と開拓した偉人だ。茂倉新道は公費で賄ったが、ほかは全て私費である。かたや蓬峠の北東 3 キロに位置する清水峠は、清水街道として江戸時代から交通の要所だったこともあり、明治 18 年に幅 3 間の上越を結ぶ国道 8 号として開通している。しかし、雪崩れや土砂崩れのために翌年不通、大正 9 年県道に降格、昭和 45 年に国道 291 号として再指定を受けて、法令上は国道ではあるが廃道のまま今日に至っている。俗に点線（徒歩道）国道というらしい。昭和 46 年高波さんは他界されたが、いまでも蓬新道をはじめに私費登山道は国道以上に存在感がある。一歩一歩登らせてもらう足の底に歴史を感じる。

林道終点でタクシーから降りて蓬新道を順調に登り、広場と称するところで昼食にとりかかった。Wさんのリュックからは自家製トマトが出てきて、丸々風味を保ったまま１人１個の贅沢を御馳走になった。予定よりも早くコップのある水場に着いたと思ったが､地図上の水場よりも少し手前の蓬沢の源流だった。水場が表記してある沢はもう少し上にあった。そこもやはり冷たくありがたい。今宵の宿、蓬ヒュッテの管理人高波菊男さんは吾策さんの三男にあたる。そこには水がないので、この水場で必要となる量とその

加重を心配しながら慎重に水を補給した。水場の周辺には虫たちもそのうまさを知っているのか、 (2/2)
蝦のような大群が容赦なくわれわれの顔や手に刺してきたのには困った。蓬ヒュッテ周辺も同じだった。どうやらわたしが一番多く献血をしたようだ。

３日前に菊男さんからＵさんに電話が入った。団体 20 人がキャンセルのため、外部屋（テント）から内部屋に移ってくれ、貸し切り状態との連絡だった。それもあって天は終始雲空だが気分は最初から晴れていた。雨でなければ上々。はやばやと草原状に浮かぶ蓬ヒュッテに着くや菊男さんから「この上に行けば高山植物や巻機山も見られるので行ってきた方がいい」とのアドバイスを受けて七つ小屋山方面を散策した。なるほどニッコウキスゲ、ハクサンフウロ、ハクサンチドリ、コバイケソウと、この稜線にしては百花繚乱。遠方には残雪を多く抱え込んだ巻機山が眼を打った。西側には台形上の苗場山もすがすがしく立っていて、反対側は朝日岳、笠ケ岳、白毛門（しらがもん）、その右手奥には赤城山が裾野を広げていた。峠というよりも山頂気分を十分に味わいこの上なかった。夜は霧雨のため残念ながら天体観測の出番はなく、珍しくまじめに酒を呑んだ。話は種々紆余曲折しながらも楽しいネタが飛び交い定刻に消灯解散した。

▼7 月 7 日（日）くもり時々小雨

昨夜の続きを聞きたい雰囲気は残ってはいたものの、きょうは長い行程を下山する仕事が残っているので、そちらに集中することにした。ヒュッテから出て間もなく蓬峠にさしかかった。あたり一面はコバイケソウの群生地で見事にすごく咲き誇っていた。蓬峠からの下りは急峻で湯檜曽川の枝沢と白樺沢との横断に３本の雪渓があり、それぞれ幅は狭いものの雪質は固く危なく、慎重に渡った。その先、白樺避難小屋手前には「国道 291 号」の交通標記が目立たないほど小さな文字で印してあった。ここから 200ｍぐらいは点線国道と登山道が合流している幅広の古道歩きとなった。白樺避難小屋では小休止しながら中の様子を拝見したが、小奇麗に使用されていてきもちのよい状態を保っていた。利用者の質の高さを伺うことができた。その後白樺尾根をただひたすらに降りて、湯檜曽川沿いの新道をほぼ真っ直ぐにＪＲ巡視小屋を経由して土合駅まで向かった。川沿いの前半は何箇所か沢を横断し、その間の登山道も数箇所がアバランチシュートによる崩壊が進んでいた。かたや後半は幅の広い道の両脇に山紫陽花が濃淡をちりばめて、飽きることなく疲れを癒してくれた。それからあとは足に任せて下った。

土合駅では待ち時間があったので、そばにあるドライブインで予定よりも一足先にのどを潤した。土合駅は暗く長い階段だと記憶していたが今日は明るい。この国境トンネルは一ノ倉岳・茂倉岳のほぼ真下を突き抜けて上越を短く結んでいる。清水トンネル（昔は単線、今は上り線）の中間地点には茂倉岳にちなんで茂倉信号場（列車がすれ違う場所）が当初設置されていたという。新清水トンネル（下り線）の土合駅は 462 の階段を一つひとつ降りたところにプラットホームがある。汗ばんだ衣服を放り投げて身体を丸洗いできたのは、国境を越えて越後湯沢駅構内にある“ぽんしゅ館の酒風呂”だった。やはり山はいいなぁ～、じっくり浸かって完全に下界の人となった。

▼特記事項

・当初土樽駅から歩く予定であったが、越後湯沢駅での待ち時間が 44 分もあるので土樽駅には行かず、越後湯沢駅から林道終点までジャンボタクシーで行くことに変更した（計画担当者の改善案）。
・蓬ヒュッテは簡素ではあるが高波菊男さんの人柄が色濃く出ていて、すっきりと清らかな山小屋だった。ちゃぶ台もあり按配よく晩酌に使わせてもらった。
・下山路はところどころ崩壊していて慎重を要した。沢も徒渉するほどではないが、幾筋も荒れていた。
・２日目は転倒滑落防止のために総じて普段以上にゆっくりと降りた。土合駅発を 1 本遅らせても（2 時間後発）、本厚木には 19 時ごろ着くという胸算用が働いた。また、急坂ではなくても今回のような場所では、ゆっくりと楽しむという口実を持っているので、それを使っても惜しむことはないと感じた。